

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703113		
法人名	有限会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区八幡西区中の原一丁目4-7 (電 話) 093-612-6007		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成19年6月15日	評価確定日	7月28日

【情報提供票より】(19年 5月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input type="radio"/> (単独)	新築 <input checked="" type="radio"/> (改築)
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	65,000 円	
敷 金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(5月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明石内科胃腸クリニック ・ しゅう眼科 ・ 上田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に開設したホームの正面玄関は緑あふれる公園が見渡せ、通りすぎるさわやかな風は、周りの人々を心豊かにし、笑顔と挨拶が自然に出来る雰囲気である。玄関を入ると、吹き抜けのホールでは利用者が学習会やカルタを自分のペースで自由に出来るように職員が支援している。管理者や職員は「笑顔、尊厳、研鑽」という理念を理解し、共有し、家族の一員として暮らし、利用者や家族から信頼を得ている。また、人が集まる公園の前という地の利を活かして、来訪者も増え、地域との信頼関係が少しずつ確立されてきた地域密着型グループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点は(1)理念の共有(2)トイレ、浴室の目印、(3)ケアプラン評価、(4)研修記録と共有化、(5)成年後見制度、人権教育の研修、(6)地域交流等で、引き続き、(1)理念の唱和、(2)浴室の目印、(3)ケアプランの評価や見直しの徹底、(4)研修会参加後の報告や所内研修を通して、職員全員で共有していくことなど更なる努力が望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が自己評価票を持ち帰り、各自が記入したものをまとめて作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は5月に開催している。家族、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム管理者で構成され、活発な意見が出て、有意義な会議である。今後はホームがリーダーシップをとり、テーマを決めて家族、地域、行政の意見を聞き、運営に反映し、地域に密着したグループホームとして、努力することが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見や苦情を出来るだけ聞き、運営に反映できるように苦情相談窓口、担当者、責任者を明示し、玄関に相談箱を設置しているが、活用されていない。利用者の健康状態や近況を定期的に報告し、家族と日常的に接する機会を増やし、気楽に相談できる関係を作り、不安、不満、苦情等、家族の意見が職員に安心して表せる雰囲気を作ることが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者と職員は地域の町内会、老人会(ひまわり年長者交歓会)、行事等、地域活動に参加し、積極的に地域の方と交流を図っている。今後は人が集まる公園前の立地を活かしたホームとして、地域住民が気楽に訪問できる環境整備等が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットの中に地域の方々との積極的な交流をうたい、ホームの理念では「笑顔、尊厳、研鑽」を掲げている。理念はわかりやすいところに掲示してある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も理念の理解はしているが、唱和や日常的に話をしていない。		実践に向けて日々取り組むためには、ミーティングの時など、日常的に管理者が話し、確認しあうことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、町内会に加入し、行事や地域活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者が、職員に評価の意義を説明し、それぞれ自己評価し、それを持ち寄って話し合い、自己評価票を作成している。前回の外部評価の結果を踏まえ、実践につなげるように努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの職員、民生委員、利用者家族などの出席により、取り組み状況など話し合い、意見交換し、サービスの質の向上に反映できるように努力している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席要請、花だよりの送付などは行っているが、積極的なアプローチは行っていない。		地域密着型では、市町村の理解や支援が必要である。ホームの方から講師派遣など、積極的に働きかけることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の取り組みが出来ていない。		特に判断力の低下した方の権利擁護についての理解は必要である。研修会への参加や、講師を招いて研修を行い、必要な人の支援に活かしてほしい。たとえば、運営推進会議で地域包括センターの職員から講演してもらったこと等が考えられる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	花だよりを定期的に送付している。受診状況や金銭出納簿に関しては、来所された時に日頃の様子と一緒に話しをしている。利用者家族全員の訪問がある。		金銭出納簿に家族が承諾し、サインしてもらうことが望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置しているが、利用はほとんどない。ホームの苦情窓口の掲示はあるが、事業所以外の相談窓口の明示がない。		意見や苦情が言いにくい家族の心情を理解し、何でもいえる雰囲気を作ったり、家族会を設立し、意見が出やすい仕組みを作っていくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代が多い、事業所間の異動や家庭的な理由の交代である。職員の交代により利用者への影響が出ないよう、説明や引継ぎを確実に行うなどの工夫がなされている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用に当たっては性別、年齢の制限はしていない。職員の社会参加、自己実現が出来るようなローテーションを組んでいる。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	十分な取り組みがなされていない。		人権教育や、研修会の参加が、人員配置の関係上困難な事情はあるが、ホーム内でビデオによる研修など工夫し、職員が人権教育、啓発活動に取り組む工夫が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は社会福祉協議会主催の研修会等に参加している。		人員配置の関係上職員の研修会参加が困難であることは理解できるが、1年間の研修計画をたて、それに添ったローテーションを組んだり、全職員が研修の共有が出来るように、研修会に参加した人が伝達研修をホーム内で行うなどの工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流が出来ていない。同じ事業所内の交流はある。		地域のグループホーム協議会などを立ち上げ、お互いに訪問し、研修会を開催し、サービスの質の向上につなげていくことが望まれる。グループホーム協議会の立ち上げなど市町村に働きかけたりすることも考えられる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学、体験入居などにより、ホームに馴染んでもらい本人や家族が納得されての入居である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共に暮らす関係を築いている。利用者の好きなケーキと一緒に焼いたり、料理の仕方を教わったりと、毎日泣いたり、笑ったりの楽しそうな暮らしである。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の困難な方は非言語的コミュニケーションで対応したり、その方の使われる方言で話したりし、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時に家族の意向や希望を聞き、全体会議を開き職員全員で介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ、又は変化時に見直しを行っている		介護計画の状況や、結果などの評価欄を作成し、利用者の状況変化を把握し、介護計画を見直すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診、理・美容の利用時の送迎、買い物、家族の宿泊の用意など、利用者や家族の要望に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関との連携が出来ていて、往診にも応じてもらえる。家族や本人のかかりつけ医と連携し、電話相談にも応じてもらえる。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針について、本人、家族、医療機関との方針の共有は出来ているが、終末期については今のところ考えていない。		開設して2年、まだ終末期については、考えていないようだが、出来るだけ早く、利用者や家族が安心してサービスを受けられるように家族や本人医療機関と具体的内容を話し合い方針を共有していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取り扱いの指針、利用目的などを明記し玄関に掲示している。日常の支援の場においても言葉使いや、誇りを傷つけない支援がなされている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペースを大切に、支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者・職員全員同じテーブルで、楽しみながらの食事である。訪問時、体調が優れず食欲のない方におかゆや暖かい牛乳が用意されていた。食後は後片付けを職員と一緒にやっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回であるが、希望があればいつでも入浴できる準備がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり、出かけることはしてもらっている。配膳、後片付け、洗濯物たたみ、掃除など楽しみながらできるように支援している。利用者の中には朝早く起きて、居室を自分で掃除される利用者もいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、外食など希望に添って戸外に出るような支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。職員は利用者の外出の気配を察知し、一緒に散歩をしたり、前の公園で休んだりして対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回消防署による災害訓練を実施している。地域の方の参加はなかったが協力が得られるようお願いしている。避難場所は前の広い公園で避難経路は3ヶ所ある。食料備蓄はない。		夜間を想定し、地域の方の参加を得て、災害訓練と救急救命の実地訓練が望まれる。3日ぐらいの食料備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に記載され、一人ひとりに応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間や台所に季節感を取り入れ、居心地良くしている。玄関先の眺めの良い庭で、天気の良い日はおやつを食べたり、お喋りをしたりしている。通りすがりの地域の方との交流も行われている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の使い慣れた物が持ち込まれている。好きなお花、写真、思い出の品が飾られて、家庭的である。		